

第5学年 道徳の時間学習指導案

指導者 北広島町立豊平小学校 教諭 湊 純子

- 1 日 時 平成26年10月16日(木) 第5校時
- 2 学 年 第5学年 25名
- 3 主題名 通い合う心 [内容項目2－(3)信頼・友情]
- 4 資料名 「長なわ大会」(出典「道徳5 あすをみつめて」日本文教出版)
- 5 主題設定の理由

○本主題は、低学年の内容項目2－(3)「友達と仲よくし、助け合う。」、中学年の内容項目2－(3)「友達と互いに理解し、信頼し、助け合う。」が発展し、高学年の内容項目2－(3)「互いに信頼し、学び合って友情を深め、男女仲よく協力し助け合う。」となったものを受け設定している。

信頼とは、相手を信じて任せる気持ちになること、頼りにすることである。友情とは、友人同士の親しみや思いやりの心である。このような気持ちを育み、よりよい友達関係を築くには、学習活動や生活の様々な場面を通して互いを理解し合い、認め合い、協力し、助け合うことが大切である。さらに、高学年では、相互の信頼の下に、協力して学び合う活動を通して互いに磨き合い、高め合うような、真の友情を育てていくことが強く求められている。

児童観

<略>

○本資料は、長なわ大会で優勝することだけを考えていた「ぼく」が、運動が苦手な練習に参加できないでいる川村君の気持ちを聞いて、友だちの気持ちを考えて協力することの大切さに気付く話である。「ぼく」や川村君の気持ちを共感的に考えさせることで、「協力して学び合う活動を通して互いに磨き合い、高め合うような、真の友情」についての価値の自覚を深めることができる。と考える。

○指導に当たっては、導入で「わたしたちの道徳」P73に書かせておいた児童の考えを知らせ、本時で扱う「信頼・友情」の価値への方向付けをする。事前に書かせておくことで、児童の実態を把握するとともに導入の時間を短縮することができる。資料提示の時には資料を配布せず、指導者が範読することで資料に浸らせたい。その際、状況を把握しやすくするためにパワーポイントで場面絵やキーワードを提示し視覚的に支援する。中心発問では、「川村君の話聞いてから、次の日に『川村君もいっしょに練習できる方法を考えてみよう。』とみんなに言うまでの間に、『ぼく』はどんなことを考えたか。」を考えさせることを通して、相手の気持ちを考えて協力することの大切さやそれがお互いを高め合うことにつながるということをしっかり考えさせたい。そのために、ワークシートを活用して自分の考えを整理させるとともに、普段発言しにくい児童も自信をもって発言できるようにさせる。また、切り返し発問で「ぼく」に責められた時の川村君の気持ちも考えさせることで、相手の気持ちを考えることの大切さに気付かせていきたい。最後の基本発問ではお互いの気持ちを理解し合い、協力し合うことで友達関係が深まっていることをおさえたい。展開後段では、資料から学んだことと自分の生活とを結び付けて考え、書かせることで自己の生き方に対する考えを深めさせたい。その中から、考えが深まっている児童に発表させ、導入で板書した「友達とは」に書き加えることで、学級全体としての価値の自覚の深まりを感じさせるとともに、一人一人の価値の自覚をより深めさせたい。

6 研究主題にかかわって

夢と志を持ち、自己実現をめざす児童・生徒の育成
～生徒指導の三機能を生かした授業・活動づくりを通して～

本授業は、「生徒指導の三機能を生かした授業づくり」を通して道徳の時間のねらいを達成することを目指して設定した授業である。

本学級には、友達の考えをよく聞いたり認め合ったりする受容的な雰囲気があるにもかかわらず、自分の考えに自信がもてず、一時間の授業の中で一度も発言しない児童がいる。そこで本授業では、展開後段にペアトークを取り入れ、全員が自分の考えを隣の席の友達に伝える場を設定する。ペアトークをして、自分の考えを友達に認めてもらったり、二人で話したことを全体の場で共有したりすることで、自己存在感を与えることができると考える。具体的には、「①初めに『私たちの道徳』に書き込みをさせることで自分の考えをもたせる。」「②ペアトークのマニュアルを提示し、スムーズに話し合いが進められるようにする。」の2つのことに取り組む。

7 本時の展開

(1) 本時のねらい

川村君の話を聞いて考えこんでいる「ぼく」の気持ちを考えることを通して、友達の気持ちを知ることやそこから生まれる信頼関係の大切さに気付くとともに、協力しながら高め合っていくことのできる友達関係を築きたいという心情を育てる。

(2) 事前や事後の活動との関わり

体育祭と陸上記録会のリレー、体力づくりで行った長縄跳び、日頃の班活動や係活動等でみんなで協力し、高め合った経験を振り返ることで、本資料の内容を自分の生活と結び付けることができると考える。

(3) 評価の観点

友達の気持ちを知ることやそこから生まれる信頼関係の大切さに気付き、協力しながら高め合っていくことのできる友達関係を築きたいという気持ちになっているか。(発言、ワークシート)

(4) 本時で用いる言語活動

- 言語活動・・・中心発問で、自分の考えをワークシートに書く。
- この言語活動を通して、ねらいを達成するために工夫する手立て
 - ・場面絵やキーワード、児童の発言を整理して板書し、中心発問までの学習の流れが分かるようにする。
 - ・何を考えればよいのかが明確になるように、発問をパワーポイントで提示する。
 - ・吹き出しに考えを書かせることで、「ぼく」の気持ちに寄り添うことができるようにする。

(5) 準備物

資料提示用P P、場面絵、キーワード・発問の短冊、ワークシート、私たちの道徳

(6) 学習の展開

段階	学習活動	主な発問（○，◎）と児童の心の動き（・）	指導上の留意点及び評価☆（方法）
導入	1「友達」について考える。	○みなさんにとって「友達」とはどんなものなのでしょう。 ・大切 ・やさしい ・楽しい ・安心 ・助けてくれる ・頼れる ・分かってくれる ・相談にのってくれる 等	・事前に「私たちの道徳」P 73 に書かせておいた児童の考えを知らせ、本時で扱う価値への方向付けをする。

	2 資料「長なわ大会」の前半を聞いて話し合う。	○同じチームに川村君がいることがわかったとき、「ぼく」はどんな気持ちだったでしょう。 ・優勝したかったのになあ。 ・あーあ、これで優勝は無理だ。 ・もう、やる気がしないな。 ○いつまでたっても一緒に練習しようとはせず、ただ見ているだけの川村君のことを、「ぼく」はどう思っているでしょう。 ・苦手だからといってさぼらないでほしい。 ・うまくとべないのに、なんで練習しないんだ。 ・いつになったら練習する気なんだ。 ・みんながんばっているのに。 ・みんなで練習しないと優勝できないじゃないか。	・資料をパワーポイントで提示することで、状況を把握しやすくする。 ・優勝することばかりを考えている自己中心的な「ぼく」の考えに共感させる。
展開前段	3 資料「長なわ大会」の後半を聞いて話し合う。	◎川村君の話を聞いてから、次の日に「川村君もいっしょに練習できる方法を考えてみよう。」とみんなに言うまでの間に、「ぼく」はどんなことを考えたでしょう。 ・川村君も本当は一緒に跳びたいと思っているんだ。 ・川村くんはさぼっていたわけではなく、みんなのことを考えて練習に入れずにいたんだ。 ・川村君の気持ちを考えずに責めてしまって悪かった。 ・川村くんがやらずにたくさん跳べても、チームのみんなの記録にはならない。 ↓ ・川村くんも入って、みんなで協力して跳べるように練習方法を工夫したい。	・ワークシートに書かせることで、考えを整理させるとともに、自信をもって発言できるようにさせる。 言語活動のポイント 川村君の気持ちを聞いて考えこんでいる「ぼく」の気持ちをワークシートの吹き出しに書かせることで、「ぼく」の気持ちに寄り添いながら自分の考えを深めさせる。
		○川村君の笑顔に向かってVサインを送っている「ぼく」はどんな気持ちだったでしょう。 ・一緒にがんばってよかったね。 ・これからも、いろいろなことを一緒にがんばろうね。 ・川村君と同じチームで長なわ大会に出ることができてよかった。	☆友達の気持ちを知ることやそこから生まれる信頼関係の大切さに気付き、協力しながら高め合っていくことのできる友達関係を築きたいという気持ちになっているか。

展開後段	4 自分の生活をふり返る。	○友達との付き合い方について、これからあなたが大切にしたいことは何ですか。それはどうしてですか。 ・お互いの気持ちを伝え合い、分かり合うこと。 ・分からないことや苦手なことを教え合うこと。 ・友達のよい所から学ぶこと。 ・協力して一つのことをやりとげること。 ↓ ・友達との仲が深まり、より良い関係になる。	・前段での話し合いを受けて自分を振り返り、自己の生き方についての考えを深めさせる。 ・「私たちの道徳」P 74に書かせる。 生徒指導の三機能のポイント ペアトークをすることで全員に自己表現の場を与える。また、ペアで話したことを全体場で発表させることでお互いの考えのよさを認め合い、学び合うことができるようにする。㊦
終末	5 写真を見て、ふり返る。	○今日学習したことを振り返りながら、写真を見てください。	・長なわ跳びや体育祭などの写真を提示し、みんなで協力し、高め合った経験を振り返る。 ・これからもみんなと友情を深めていこうという気持ちになるようなメッセージを入れる。

生徒指導の三機能を生かした授業づくり

㊦…自己存在感を与える ㊧…自己決定の場を与える ㊨…共感的人間関係を育成する

(7) 板書計画

価値ある十二回

くやしきはない

場面絵②

どうしても遅れてしまう。ぼくがいると続かないからみんなも楽しくない。

場面絵①

みんなでやらないと練習にならない。長なわは一人一人ががんばって協力しないと。

友達

大切・頼れる・やさしい

長なわ大会

ぼく…今年こそ、よいチームで優勝したい

川村君と同じチーム

これで優勝は無理だ。やる気がしないな。

いつまでたつても、ただ見ているだけの川村君

- ・苦手だからといってさぼらないで。
- ・なんで練習しないんだ。
- ・みんながんばっているのに。

考えこんだ「ぼく」

- ・川村君も本当はとびたかったんだ。
- ・川村君はみんなのことを考えていたんだ。
- ・川村君もやらないとチームの記録にならない。
- ・川村君もとべるようにしてあげたい。

川村君も一緒に練習できる方法を考えよう。

川村君の笑顔にVサイン

- ・一緒にがんばってよかった。
- ・これからも一緒にがんばろう。